

長崎医療センター

座談会 Vol. 11

# 千燈照院

特別編～長崎医療センターの今後のあり方～

平成28年度の病院運営について  
～急性期医療で地域に貢献する～

千燈照院とは…  
長崎医療センター千人の職員  
が力を合せて高度医療の実現  
にまい進する姿勢を表す言葉。



長崎医療センター院長

江崎 宏典

(えざき ひろのり)

平成24年より現職

平成28年度を迎え、本年度の運営方針等をお伝えしたいと思いますが、その前に今回の「熊本地震」により大きな被害が発生しました。被害に遭われた方々に心よりお見舞いを申し上げます。長崎医療センターでも災害対策本部を早期に立ち上げ、医療支援を実施してまいりました。職員の皆様には今回の災害対応にあたって多大なるご協力をいただき、ありがとうございました。

さて長崎医療センターの昨年度の診療実績と経営状況をまずお示します。新入院患者総数は前年度より450人以上も多い14,857人でした。平均在院日数は一般病棟で12.8日と初めて13日を切っております。経営面では新たに長期公経済負担や社会保険料の負担があり、厳しい決算結果が予想されていました。しかし新入院患者増加等による収益の増加、また経費削減などに努力いただいたこともあり、経常収支率は100%を達成することができました。これにより昨年度に掲げた病院の目標(取り組み)である“①診療密度を上げる②経常収支率100%を目指す”を、両方ともクリアすることが出来ました。職員の皆さんが一丸となって頑張っていたいただいた賜物です。この場を借りて感謝申し上げます。

年度	新入院患者総数	平均在院日数
平成27年度	14,857人	12.8日
平成26年度	14,399人	13.7日

本年度の病院運営、目標ですが、長崎医療センターは地域から信頼され、選ばれる拠点病院、そして医療を通じて地域に貢献できる病院となることを目指しています。本年は長崎県内では第一号となる「DPC医療機関群Ⅱ群」の認定を受け、さらに総合的かつ専門的な急性期医療の提供体制を評価する「総合入院体制加算1」の基準もクリアする

ことができました。これにより名実ともに高度医療、質の高い医療を提供する地域拠点病院として認められたものと思います。このような対外的な評価に応えることが出来るように、これまで以上に病院の機能、病院の力を高めていく必要があります。そのカギとなるのは急性期病院としての必要条件である7:1病棟を維持することにあります。4月からの診療報酬改定で一般病棟の7:1入院基本料の要件が大変厳しくなりました。そのため多くの病院で7:1病棟の維持が困難になると予想されています。しかし当院にとって7:1病棟は急性期病院としての生命線であり、必ず確保しておかねばなりません。それには新入院患者の確保(特に救急受入)と手術症例増加が特に重要です。同時に地域の医療機関との連携も同じく大切であり、中でも後方連携をより一層進めていく必要があります。そのため退院調整機能の向上に力を入れていきます。なお7:1病棟要件の取り組み状況は院内のイントラネットの右上に新入院患者数と並ん

で掲示致しますので、チェックをお願いします。

国立病院機構全体の取り組みとして本年度から「強靱化計画」がスタートします。これは病院運営と経営の強靱化をはかり、将来にわたって持続可能な組織であることを目指すものです。具体的にはそれぞれの病院は自院の現状と課題を整理し、5年後となる2020年の将来ビジョンに基づいた戦略を立案し、その実現に向けた対応を進めていくことが求められます。長崎医療センターは地域の拠点病院として、更なる診療機能の向上と経営の健全化を図って強靱な病院を目指していきます。

病院を支えるのは皆さん一人一人の力とそれを合わせたチームワークです。その力を十分発揮できるように、これまで以上に働きやすく、そして安全な病院環境を整備していきたいと思っています。皆で力を合わせて素晴らしい病院としていきましょう。

平成28年5月  
院長 江崎 宏典

